

# 共生・協働の地域社会づくり

阿久根市 NPO法人

Big up

《問い合わせ》 ☎09966(73)1070

思いはひとつ。

阿久根から元気を！

1月25日、阿久根駅にライダーハウス「あくねツリーングSTAYtion」が誕生した。昨年現役を引退した「寝台特急なは」が生まれ変わったものだ。手がけたのは、地元NPO法人Big up。

「阿久根を元気にしよう！」との熱い志を持った、レゲエ好きな若者を中心に結成された。「Big up」とはレゲエの本場、ジャマイカの言葉で「ようこそ。はじめまして。ありがとう」という意味だ。「いつも感謝の気持ちをお忘れず、Big upに始まり、



▲ライダーハウスとして第2の人生を送る「寝台特急なは」



▲車両を磨けば愛着もひとしお。

Big upに終わる。そんな活動を続けて、いつかは本当のBig upな波になりたい」とのメンバーの思いが込められている。

## 寝台特急を阿久根へ

街に活気を生む仕掛けとして駅のシンボル「列車」を活用し、宿泊と交流の拠点「ライダーハウス」を設置することにした。大友恵子理事長は、「駅は市民と旅行者とが自然に会話を交わせる独特の雰囲気を持っていて、現在の阿久根駅周辺は空き地が多く、淋しい印象を受けますが、この駅が、活気を生み出す拠点となり、市民と旅行者との交流の輪が広がることを期待しています」と話す。

事業は列車の設置や費用不足など困難を要した。このため車両清掃の、ボランティアを募集したところ、県内はもとより県外からも多数の参加があり、結果としてライダーハウスを全国にPRするいいきっかけと

なった。また、募金をする列車にネームプレートを貼れる仕組みも導入した。「このプレートを見るために阿久根に来てくれる人が増えるといいですね」と大友理事長の思いはふくらむ。

さらなる発展を目指して

Big upの活動は、ライダーハウスの運営にとどまらない。例えば、遊休農地を活用して、旅行者や地元の子どもたちを相手に、唐箕や石臼といった昔の農具や民具を利用した体験型農業を行っている。また、北薩バイクボランティアと協働で、トライアルコース「阿久根トライアルランド」を整備した。ここで毎月開催しているバイク大会には、県内外から多くの参加者が集まる。

今後は、阿久根が県境を越えた広域情報の発信拠点となることを目指し、肥薩おれんじ鉄道を活用したさまざまな活動を企画している。

拠点があれば情報が集まり、人が集まる。人と人との交流が生まれる。交流が生まれれば街に経済効果が生まれ、活気が出る。そうすれば市民の意識が変わり、より一層地域が活性化される。人の交流がもたらす地域活性化の相乗効果を期待して、Big upは走り出す。



大友理事長（中央）とスタッフのみなさん

阿久根へのお越しをお待ちしています！



石臼を使ったそば打ち体験のひとつ

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進室（県庁市町村課内） ☎099-286-2241

◎共生・協働センター（かごしま県民交流センター内） ☎099-221-6605

関連情報は、県ホームページの「共生・協働（NPO・ボランティア）」にも掲載しています。